

出羽三山「七大御秘所『 神秘の解剖実査 』」と連れ立つ

出羽三山一気通貫往復行記録

手向髓神門→羽黒山→月山→湯殿山→湯殿山参籠所
湯殿山参籠所→湯殿山→月山→手向髓神門

古道通貨、一気通貫、全徒歩行の踏査記録

2008(H20)年 10 月 31 日 (金)

(山形市の大沼香)



その1；月山の祭神「月読命」（ツキヨミノミコト、ツクヨミノミコト）——月弓尊、月夜見尊、月読尊です。日本神話（古事記・日本書紀）における図-1の

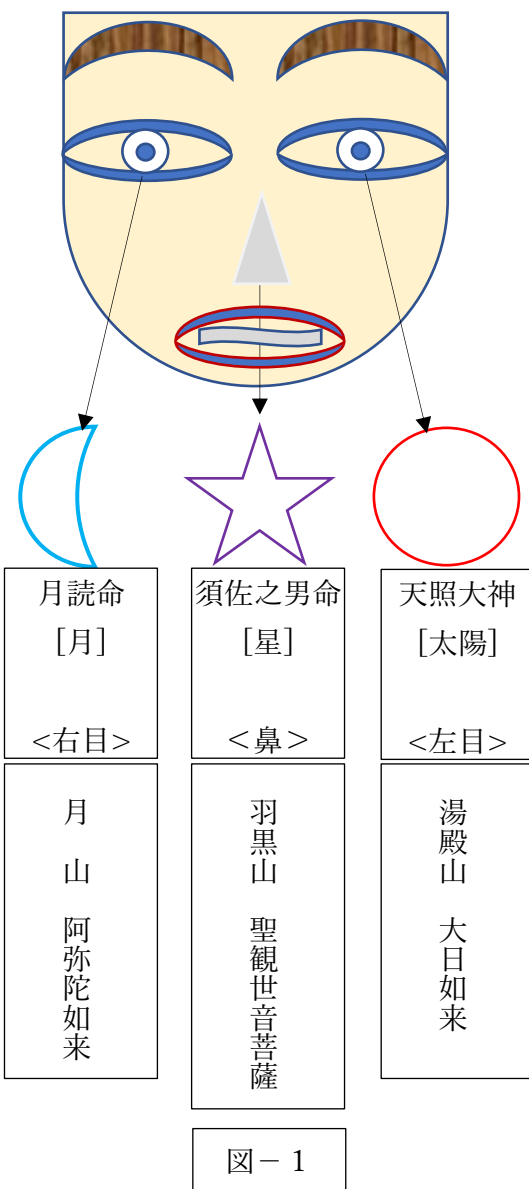
とおりの三貴子の一つです。伊邪那岐神（男、夫・父）は、伊邪那美神（女、妻・母）を追いかけて・・・黄泉の国から帰られたイザナギは、川に入って禊を行うが、真水と海水の合流点（河口）付近で中瀬——上瀬は急流であり、下瀬は緩流であり、その2箇所は適地に非ずして、上瀬と下瀬の間地（中瀬）で臨み、最後に顔を洗った際に三貴子を産みます。

この話の肝は『中』です、中和の中、中庸の中です。「月読命」は天照大御神の弟神になります。

天皇の祖先神と崇める天照大御神は最高神の位置付けです。

スサノオは多彩な性格を有しています。母の国へ行きたいと言って泣き叫ぶ子供のような一面があるかと思えば、高天原では凶暴な一面を見せ、出雲へ降りると一転して英雄的な性格となり、国民に広く知れ渡っています。

しかし、「月読命」は余り知られていません。そういうことからであろうが、出羽三山においては余り目立たず、庶民にとっては合祭殿がある羽黒山と熱いお湯が染み出る岩体の湯殿山の方が有名です。もちろん、月山は登山愛好者にとってはこちらが目的化します。さらには、神道系・仏教系においても、月山は羽黒修験道の目指す聖地の一つであることには変わりません。



その2；月山の宗教的な意味合いは、他の膨大な文献に譲り、私の実践的取り組みを記述します。

この章では「月山」を央（王）座に置きつつ、羽黒山・月山・湯殿山の三山を、一気通貫ウォーキングを以って参詣する行動です。一気通貫ウォーキングとは、この三山を一切の動力交通機関を使わずに歩き通した取り組みであります。

1. 羽黒山⇒月山⇒湯殿山

2008(H20)年7月19日(土)～20日(日)の2日間

<1日目>2008(H20)年7月19日(土) = 図-2

曇り時々晴れ／ウォーキング行程通算10時間30分、約26km、2.5km/h

- 6:25 羽黒駐車場着(隋神門のちよつと先にある)
- 7:00 隋神門発; スタート
- 8:00 羽黒山頂合祭殿着(お参り、朝食)
- 8:15 同発
(旧道、吹越籠堂経由)
- 8:50 荒澤寺通過
(旧道経由)
- 9:45 1合目(海道坂、左手の旧道に入ってみたが、まもなく藪の中)
- 10:15 2合目大満・小月山神社着
- 10:25 同発
- 11:10 3合目神子石(広く駆け払いされていた。小屋後の基礎石積み)
- 11:30 4合目強清水(飲める水場はなし、10m左手上が小屋跡とのこと)
- 12:10 (5合目手前で休憩と昼食、ポツポツと雨粒、雨具使用せず、横になって休憩した、この直前の時間帯が一番きつかった。)
- 12:30 同発
- 12:35 5合目狩籠通過
(その先右手から旧道に入る、6合目まで藪であった)
- 13:10 6合目小屋着(休憩、水は小屋の中に、小屋の1階はボロボロ)
- 13:50 同発
(旧道経由)
- 14:35 7合目(背の高い草ヤブ、秋には枯れるだろう、その僅か先には良質・豊富に水場、合清水小屋と一体の近さ)
(旧道経由、8合目手前には昔の小屋跡があって、墓石もある)
- 15:15 8合目(御田原参籠所)着
- 15:30 同発
- 16:30 9合目
- 17:30 月山山頂着(霧で視界は良く無かった、月山神社お参り、頂上小屋に素泊まり5,800円、素泊まりは12人くらいでゆったりであった。)

<2日目>2008(H20)年7月20日(日)

曇り時々晴れ／ウォーキング行程通算3時間30分、約6km、1.7km/h(参拝含む)

6 : 0 0 月山頂上小屋発

8 : 2 5 湯殿山奥の院着（神主さんがいなかったが、独りで参拝した）

9 : 0 0 同発

9 : 3 0 湯殿山参籠所着；ゴール

（この休憩の間に庄内交通案内所脇のイスに携帯電話を置き忘れた、後で判明、翌日無事回収できた。）

.....

1 1 : 0 0 同バス発

1 2 : 1 0 鶴岡サンモール着

（バス乗り継ぎ）

1 2 : 4 0 羽黒行き発

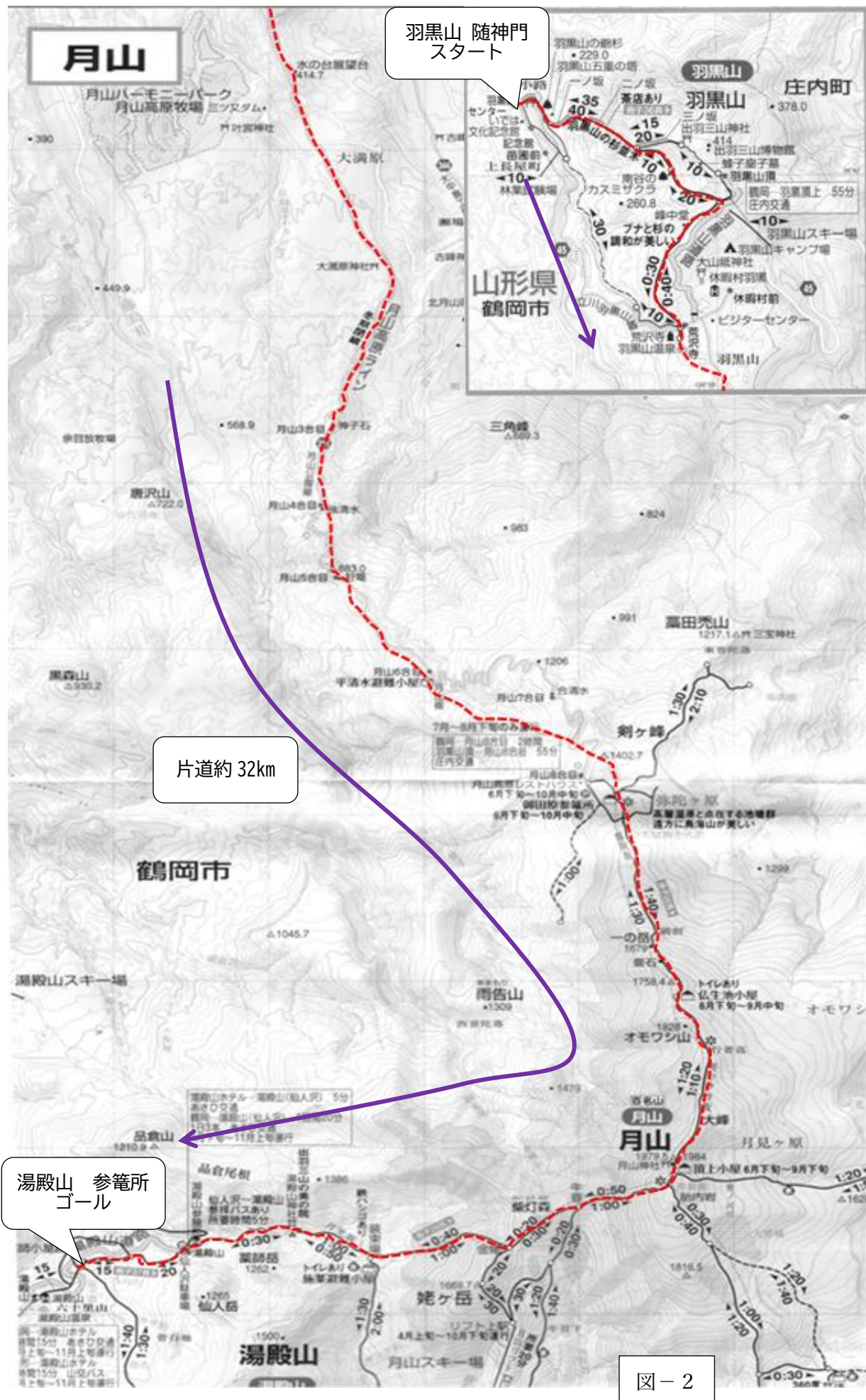
1 3 : 3 0 羽黒駐車場着

（ここまでの行程は7時間30分）

.....

《メモ》

- ・ いでは文化記念館の伊藤さんに「出羽三山絵日記」のことで、お礼を言うために立ち寄った。
- ・ 「今年の秋 9/20-9/21 に回峰行があるので、その時に月山旧道が今以上に整備される。歩くとすればその後がよろしいのではないか。」とアドバイスがあった。
- ・ 羽黒山から月山までは、それぞれの小屋跡が残っていて、昔の往時の風景を想像しながら歩いた。できるだけ旧道を歩くべく努めた。秋に再挑戦してみたい。
- ・ 旧道と関連する小屋跡の復元・整備がされていて地元関係者の御努力に感謝したい。
- ・ このコース（向き）では、確実な水は6合目・7合目か、8合目はレストハウスに行くべきである



2. 湯殿山⇒月山⇒羽黒山

2008(H20)年 10 月 18 日 (土) の 1 日間

○2008(H20)年 10 月 18 日 (土) = 図 - 3

晴れ時々曇り／ウォーキング行程 11 時間 05 分、約 34km、3km/h

5 : 4 5 湯殿山ホテル着

(自宅から車で行き、湯殿山ホテルのところの駐車場に止めた。)

6 : 0 5 同発 (旧道を歩いた) ; スタート

6 : 2 5 湯殿山参拝所

(神主さんがいなく、独りで参拝した)

7 : 5 0 装束場小屋

9 : 3 5 月山山頂着

9 : 5 5 同発

11 : 4 5 月山八合目着

11 : 5 5 同発

12 : 2 0 7 合目小屋跡

(豊富な水場あり、前回とは違い、きれいに下刈りされていて、視界が良く、庄内平野が丸見えであった)

13 : 1 0 5 合目狩籠通過

15 : 0 0 1 合目海道坂通過

15 : 4 5 荒沢寺通過

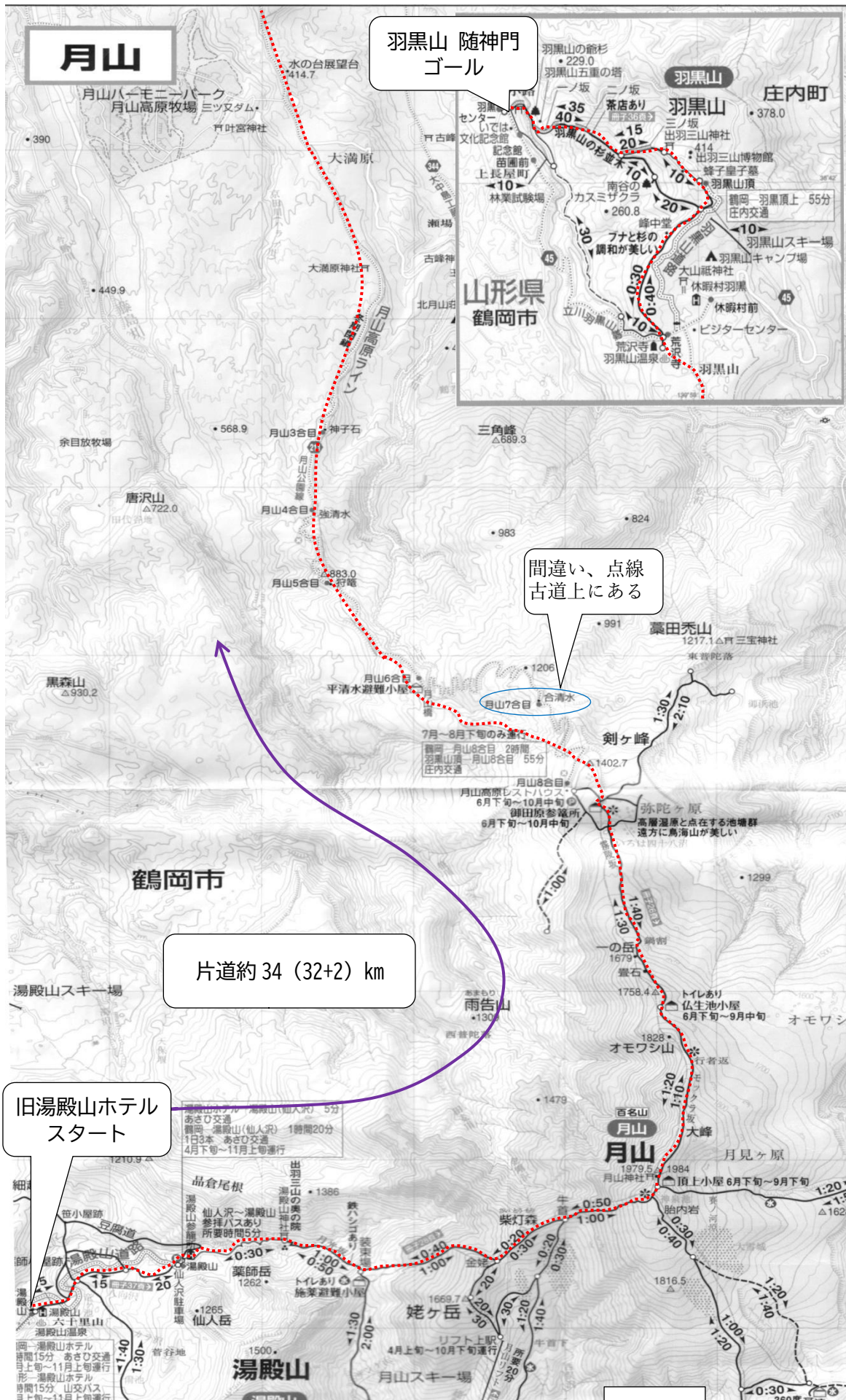
16 : 1 5 羽黒山合祭殿着

16 : 2 5 同発

17 : 1 0 随神門着 ; ゴール

.....

(羽黒町の知人宅に泊まった。)



[メモ]

- ・天候が快晴に近く、体調も良く快調に歩くことができた。
- ・湯殿山神社には、6:55に着いたが、神主さんがいなかったものの独りで参拝した。
- ・月山八合目から荒澤寺までは、下刈り復元されていて歩ける全ての旧道を歩いた。
- ・随神門に到着した後で、羽黒タクシーで「温泉ゆぽか」に向かって、温泉に入り体をきれいにした。その後、タクシーで菅原功さんに向かい、懇親しながら泊めて貰った。
- ・この時は、湯殿山ホテルでのスタートをもう30分早いと、もう少し全体的な余裕が出来た。12時間もあれば、余裕を持って全コースを1日で貫通することが可能と分かった。ただし、猛暑の時はきついかもしれない。
- ・前回の夏場のウォーキングと比較してみると、今回と反対の羽黒山→月山→湯殿山のコースは、月山までが上りロングコースとなるので、この向きは、2日掛かりというのが妥当と思われた。
- ・旧道と関連する小屋跡の復元・整備がされていて地元関係者の御努力に感謝したい。
- ・良好な水場としては、湯殿山側月光坂を上った装束場小屋の先（月山より）、後は、羽黒山側に下ってからの7・6合目である。

羽黒～月山八合目まで歩いた古道ルートとは次頁図－4中のピンク色の道である。この時は地元が熱心に復元・修復に尽力したが、2022(R4)年7月10日(日)月山御浜池トレイルに行った時は、藪化して廃道同然の状況になっていた。道沿いのあちらこちらに墓石や石碑があった、おそらく誰も記録していないだろう。後記の「出羽三山絵日記」にも記載されていないので、本当は調査を行いたいものである。

月山6合目～8合目MAP

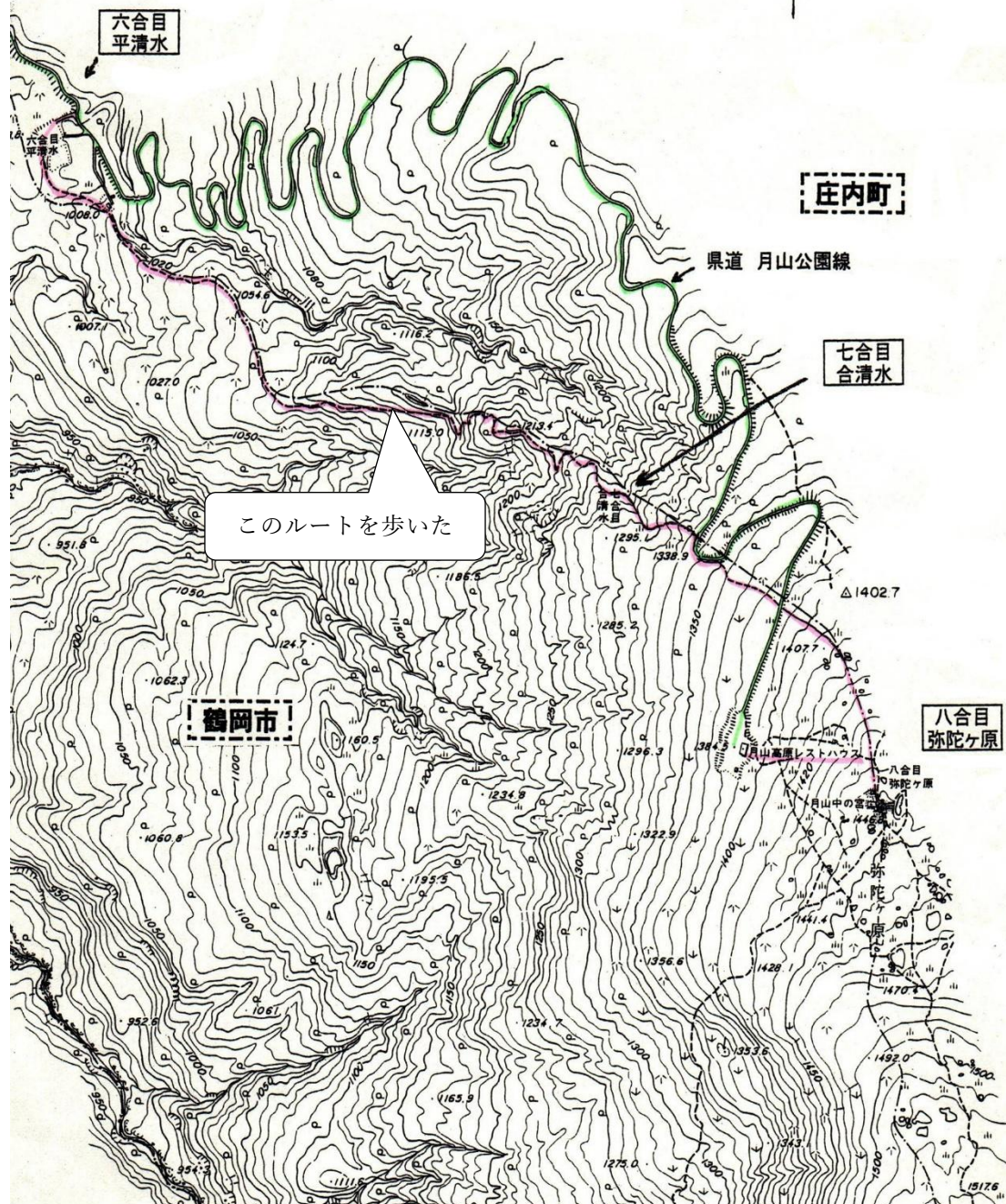


図-4

3. 全体共通所感

その1；他人に説教がましく能書きを垂れる前に自ら実践です。率直に申し上げます。この出羽三山「羽黒山⇔月山⇔湯殿山」の一气通貫徒歩行（スルーハイク）に拘ったのは、**地元の人達・関係者は“吾が山形県の誇る歴史深き出羽三山！”と、何かに付けて、儲け口の観光等と結び付けて吠えています。**しからば、松尾芭蕉も歩いたこの三山を繋ぎ一气通貫で歩いたことはありますか？というのが疑義の発端です。

特に、「荒澤寺から月山八合目までの古道を一気通貫で歩いたことはありますか、地元の人達は？」という投げ掛けです。そこで、やらない。やれない人に文句を言ってもしょうがない、“^{ひと}他人に言うなかれ、吾れ、自ら行動すべし ”という私の性格上、実査決行となったものです。それも、往復でないと片手落ちというものです。森羅万象、何事も悉く陰陽二元相待（対）原理の世、「羽黒山→月山→湯殿山」を陽とすれば、反対向きの「湯殿山→月山→羽黒山」は陰となります。両方を実践なればこそ、陰陽相まつのバランス（中庸・中和・中性）です。

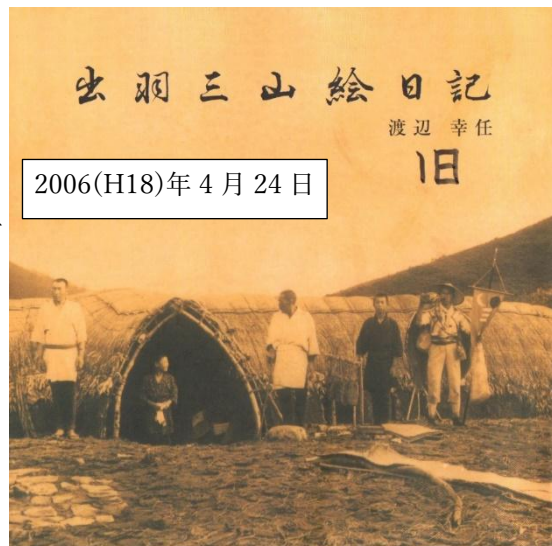
その2；地元の古道復元努力に応えたいという思いです。

①2002(H14)年頃から地元による「荒澤寺から月山八合目までの古道（旧月山登拝道）復元」への取り組みが話題になっていました、確か新聞にも報道されました。②また、図－5の冊子を入手していました。その中には月山山頂までの一合目から9合目までの往時の小屋（図・表－6）の様子を克明に記しています。この冊子は古い写真を多用し、見ごたえのある貴重な資料となっています。

その3；私の実践の一旦です。①と②の情報に触れ、どうしても、旧小屋跡を確認しながら月山古道を歩き通したくなり決行した次第です。古道を歩き通しました。特に荒澤寺から月山八合目までは、6割くらいは車道歩きです、バス路線においてのこの歩き行動は他人から見れば無駄というものでしょう。

樹木の背丈の低い場所、日当たりの長い場所は、下刈りしても3年もすると樹木と根曲り竹が両側から押し寄せて藪化します。せっかく下刈りした山道は、とにかく歩くことです。歩く人を誘導することです、そのためには、「危険」という言葉はタブーです。24時間365日見守りが出来ない山道です。いつ発生するとも限らない「危険」と隣り合わせの山道です。しかし、道を固めるには、藪化の勢いを削ぐためには、ここに来て歩いて欲しいのです。そこでのキーワードは「自己責任」の4文字です。責任回避をイメージさせる他の修飾語はまったく不要です。

その4；出羽三山関係者は、この歴史を何千年もの重みがあると誇り、損得勘定に全身全霊、儲け口探しに四苦八苦ということでしょうが、それはそれとしても、月山八合目までのいわゆる月山観光道路は1968(S43)年に完成したそうです。つまり、それまでの月山登拝は月山古道（旧道）を歩いたのです。何千年というならば、何千年も歩かれて来た山道なのです。2022(R4)年で完全藪化・廃道にして良いのですか？ 特に神職関係者は他人^{ひと}に対して立派なことを垂れますが、自らが「神様」――出羽三山神社 HP より引用すると、



図－5

月山一合目	海道坂小屋
〃二合目	大満小屋
〃三合目	神子石小屋
〃四合目	強清水小屋
〃五合目	狩籠小屋
〃六合目	平清水小屋
〃七合目	合清水小屋
〃八合目	弥陀ヶ原小屋
〃九合目	仏生池小屋
〃十合目	山頂
図(表)－6	

「 月山神社は、天照大神の弟神の月読命(つきよみのみこと)を、出羽神社は出羽国の国魂である伊氏波神(いではのかみ)と稲倉魂命(うかのみたのみこと)の二神を、湯殿山神社は大山祇命(おほやまつみのみこと)、大己貴命(おほなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこなのみこと)の三神を祀っています。 」に恥じない実行をしていますか？ 他人に対して立派なこと垂れる前に自分が出羽三山の大神に従順になれ！と言いたい。

その5；頭でっかちは自己充実感を得られません。「知行合一」(知っている・分っていると言っても、行わなければ知っている・分っていることにはならない。それでも、知っている・分っていると我を張るのであればそれは妄想というもの、本人は気付いていない精神疾患病！が発症しているということです。

.....

以上、出羽三山の秘所・聖地に立ち入って来たが、お陰様で大いなる人生勉強を一杯させて貰いました。出羽の大神に感謝、感謝です。

(end)